

就任ご挨拶

国際力の強化と情報基盤の整備

理事兼副学長 櫻木 弘之



有恒会の皆様には、平素より本学の

教育と研究に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年4月、荒川新理事長兼学長の下に発足しました新体制において、理事兼副学長（研究・情報・国際交流担当）を拝命いたしました。言うまでもなく教育と研究は大学に課された最も重要な使命であり、大学の根幹であります。本学は長年にわたる先輩方のご尽力により、多様な分野に有能な教員を擁する伝統ある総合大学として、高度な研究に裏打ちされた教養教育、学部・大学院教育を実践し、多くの有為な卒業生を社会に送

り出してまいりました。平成18年度の法人化以降、運営費交付金の大幅な削減と教員定数の20%削減という厳しい状況下にあっても、金子元理事長兼学長、西澤前理事長兼学長はじめとするこれまでの執行部の方々のご尽力、そして大学教職員一丸となつての献身的な努力により、本学の誇る「高度な研究とそれを基盤とする高度人材育成」という機能の維持・発展が図られて参りました。

研究担当理事・副学長として、これまでに築き上げられてきた本学の研究基盤の更なる強化に向け、全力を傾けて参りたいと考えております。特に、本学の強い研究分野については、戦略的に重点強化し、種々の競争的大型外部資金の獲得にも全学を上げて取り組んでおります。そのために、従来の基盤研究費に加え、学内競争的資金である「戦略的研究経費」の重点的配分を行うと共に、私が本部長を務める研究推進本部の中に、昨年度よりURA (University Research Administrator)

センターが設置され、研究系外部資金の獲得支援、分野横断型・複数機関参加型の競争的資金プロジェクトの企画立案、若手研究者の育成支援等を行っております。女性研究者の研究環境整備についても、男女共同参画やダイバシティの理念の下、その取り組みを全学的に拡大しております。

また、教育、研究両面での国際力の強化と情報基盤の整備も今後の重要な課題です。本学は既に海外の多くの大学・研究機関と包括連携協定等を締結しており、これを基盤に教育・研究上の連携を一層強化するとともに、本学学生の海外留学促進と海外からの留学

生受け入れ体制の整備を進めて参りたいと思います。また、情報革命ともいわれる時代にあつて、研究大学に相応しい情報基盤の整備にも努めてまいります。

これらの取り組みを強力に推進し、本学のプレゼンスを一層高めていく先に、現在、様々な角度から検討が進められております本学と大阪府立大学の統合による新大学のあるべき姿が定まり、真に魅力ある新大学の創設と発展を実現することが可能になるのではないかと思います。今後とも有恒会の皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

「大阪学—グローバル視野から見る大阪—」について

大阪市立大学理事兼副学長 井上 徹



日本そして大阪を取り巻く社会情勢は国際化に向けて大きな変貌を遂げつつあり、グローバルに活躍する人間へのニーズが高まっています。そこで、本学では、西澤良記前学長の発案により、平成27年度後期、学長特命科目として、「大阪学—グローバル視野から見る大阪—」（以下、「大阪学」と略称）を開設し、2年間、試行すること

にしました（全学共通教育・総合教育科目A「特別枠」。「大阪学」の狙いは、この授業を受講した学生がグローバルな視野から大阪という地域を捉え、国際化に柔軟に対応できるような人材へと成長することを期待する点にあります（詳細は本誌第204号参照）。1年目の試行を実施した成果を簡単に振り返っておきます。

「大阪学」の講師としては、日本にとどまらず世界でも活躍している社会人、優れた教育研究成果を上げている本学教員をお招きし、オムニバス形式で授業を担当していただきました。授業の実施に際しては毎回ファシリテーター（本学教員）が付き添って、授業の円滑な運営を補助するようにしました。また大学教育研究センターの飯吉弘子教授が毎回出席し、授業全体の進捗を見渡し、学生とのコミュニケーションが円滑に進むように配慮し、最終回には総括討論、アンケートの実施を行いました。私自身も第1回目のガイダンスで「大阪学」の趣旨を説明し、最終回の授業に参加して学生の討論の様子を見学しました。

「大阪学」には全8学部から86名が登録し、毎回70名前後が出席。授業中に講師との間で活発な議論が行われ、授業の終わりに提出されるコミュニケーション

ーションカードでも多くの質問、コメントが記載されるなど、能動的学修にふさわしい内容となったようです。また、最終回に行われたアンケート結果では、「①大阪について多様な視点から知ることができた」「②グローバル化のなかでの大阪の現状と未来を考えるきっかけとすることができた」「③全世界に急速に広がっているグローバル化の最先端の状況を知ることができた」「④専門を越えた幅広い知識を身につけることができた」「⑤在学中だけでなく、卒業後も見据えて、どのような職業に就き、いかに生きていくかを考える手がかりとすることができた」という5つの質問に対して、①、②、④、⑤は、「とてもそう思う」「少しそう思う」という回答の合計がおおむね80-95%であったのに対して、③の回答は68%であり、最先端のグローバル化の状況を学修する点で課題が残されたといえるかもしれません。


〈本年度後期〉

さて、試行2年目の本年度後期の「大阪学」の運営責任者は私から副学長の桐山孝信教授にバトンタッチしました。学外からお招きする社会人講師は10名。このうち、藤沢久美（シンクタンクソフィアバンク代表）、古川弘

成（阪和興業株式会社代表取締役）、畑田美智子（ガラスアーティスト）の3氏は統投、新たにお招きした社会人講師としては、倉持治夫（大同生命保険顧問）、橋村公英（東大寺執事長）、坂本陽子（㈱ワイエムエス社長）、米田昭子（近鉄百貨店商業開発本部参事）、鳥井信吾（サントリー副会長・大商副会長）、生野照子（社会医療法人浪速生野病院）、西浦けい子（マンダム人事部主幹）の各氏。大阪の実業家・企業人、評論家、宗教人、アーティストなど多彩な顔ぶれであり、グローバル化、ダイバーシティ、現代人の心性など、それぞれの持ち味を活かした授業を展開していただきます。

学内の講師としては、森一彦（生活科学研究科教授）、中尾正喜（工学研究科特命教授）、天尾豊（複合先端研究機構教授）、仁木宏（文学研究科教授）の4氏が昨年度に引き続き担当されます。都市防災、都市の熱エネルギー有効利用技術、人工光合成、日本中世都市史を専門とし、最先端の教育研究成果を披露していただけです。

授業の目標、方式は昨年度と同様です。第1回の授業でオリエンテーション（桐山孝信副学長）、毎回ファシリテーターの教員が授業を補佐し、最終回に飯吉弘子教授が総括を行います。



願いをこめた新薬を、
世界のあなたに届けたい。

 小野薬品工業株式会社

今年度で試行期間を終えることとなりますので、荒川新学長の方針のもと、「大阪学」を見直し、来年度以降の授業計画を検討しているところでございます。ご期待いただければと存じます。

末尾になりましたが、「大阪学」の開設・運営には、大阪市立大学有恒会及び同窓会の支援を頂戴しています。改めて関係各位に謝意を表させていただきます。